

平成20年度 決算報告書

国立大学法人福岡教育大学

(単位:百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算 - 予算)	備考
収入				
運営費交付金	3,976	3,976	0	
施設整備費補助金	664	565	99	(注1)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	29	29	0	
自己収入	1,914	1,891	23	
授業料及入学金検定料収入	1,872	1,849	23	(注2)
雑収入	42	42	0	
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	62	89	27	(注3)
目的積立金取崩	113	145	32	(注4)
計	6,758	6,695	63	
支出				
業務費	4,237	4,111	126	
教育研究経費	4,237	4,111	126	(注5)
一般管理費	1,766	1,503	263	(注6)
施設整備費	694	595	99	(注7)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	61	115	54	(注8)
計	6,758	6,324	434	
収入 - 支出	0	371	371	

予算と決算の差異について

- (注1)施設整備費補助金については、附属福岡小学校体育館新築の事業が翌年度に繰越となったため、予算額に比して決算額が99百万円少額となっています。
- (注2)入学料、授業料については、予算積算時の入学者数、免除申請者数の見込みと実績の差により、予算額に比して決算額が19百万円少額となっています。検定料については、志願者見込み数と実績の差により、予算額に比して決算額が4百万円少額となっています。
- (注3)産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、外部資金の獲得に努めた結果、受託研究・受託事業収入が15百万円、科学研究費補助金間接経費が12百万円、予算額に比して決算額が多額となっています。
- (注4)目的積立金取崩については、予定されていた工事等については経費削減努力を図りましたが(51百万円少)、教育研究環境整備の重要性から教職大学院棟の新営工事(78百万円多)、外壁改修等工事(5百万円多)のために取崩を行ったため、予算額に比して決算額が32百万円多額となっています。
- (注5)教育研究経費については、教員退職手当の次期への繰越による支出減(91百万円少)、中・長期的な人件費の所要額の見直し(114百万円少)、経費削減努力(49百万円少)、図書費の増額(5百万円多)、予算で見込んでいなかった教職大学院棟の新営工事による支出の増加(123百万円多)等の理由により、予算額に比して決算額が126百万円少額となっています。
- (注6)一般管理費については、役員・職員退職手当の次期への繰越による支出減(203百万円少)、中・長期的な人件費の所要額の見直し(52百万円少)、経費削減努力(13百万円少)、注4で示した理由による支出の増加(5百万円多)等の理由により、予算額に比して決算額が263百万円少額となっています。
- (注7)施設整備費については、注1で示した理由により支出が減少し、予算額に比して決算額が99百万円少額となっています。
- (注8)産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、注3で示した理由等により支出が増加し、予算額に比して決算額が54百万円多額となっています。